

# 議員津波避難訓練

実施日（場所） 3月25日（真鶴港周辺） 3月30日（岩海岸周辺）

大規模地震災害に備えて、自治体等による災害への対応が重要性を増している。

真鶴町議会として大津波襲来を想定し、3月25日と30日の2日間にわたり災害時避難シュミレーションを実施した。



災害発生時に際しての危機管理対策のため、実地検証を行ったものです。避難時に想定される種々の機材を準備し広域避難場所に向かうため、いくつかのルートを設定し、危険個所の確認や到着までの時間の計測などを行った。

## 訓練内容

**徒歩避難者：**道路沿いの石積み壁・老朽化建物・石塔等通路に落下する危険がいっぱい

特に石垣の頂部に建てられたブロック塀は危険

**車イス避難者：**坂道がきつく避難は困難、介助者が絶対に必要

**手押車避難者：**高齢者や身体障がい者を想定 ゆっくり歩きで時間がかかる、介助者が必要

**避難持出品装備者：**急坂はきついが障害物がなければ問題ない、石垣や石塔など散乱していたら乗り越える時間を余分にみたい

## 検証内容

- ◎ 海拔20メートルを超える地点まで、いかに短時間に避難するか、日頃から考えておくことが必要
- ◎ 海拔表示のプレートは、もっと派手にできないか
- ◎ 広域避難場所への方向を示す表示（道路にペイント）があってもよいのではないか
- ◎ 広域避難場所を表示する看板を海岸近くに設置した方がよいのではないか
- ◎ 海拔30メートル程度の高台ならばひとまず安心、たとえ民地であったとしても広い空地は広域避難場所へ移動する前の一時的避難場所として想定し、地域ごとに設定しておいた方がよい。（隣組、小グループで作る地域住民で共有するとよい）
- ◎ 遠くの広域避難場所を目指すより先ず近くの高台、安全を確認してから広域避難場所へ
- ◎ 出来る限りブロック塀を生垣へ

## その他

避難リュックには一時避難品を常に準備しておく

自然災害危険箇所マップを作ってはどうか（現存する津波ハザードマップの加工版でよい）



荒井城址公園のしだれ桜

表紙の写真の投稿をお待ちしております。

東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます

真鶴町議会としても災害が発生した場合の話し合いを重ねています。

編集後記

横浜出張のためJR線に乗った。小田原駅に着いたとき学生が四人乗り込んできた。ちょうど昼時とあって座席は空いていた。学生たちの服装は、ズボンをはかろうじて腰の辺りで止まり、シャツははだけ、いまだ若者風体である。

座席に座るなり携帯電話を取り出して、ネットゲームを始める者、大声でしゃべり高笑いする者、車内はとたんに騒がしくなった。特に注意するでもなく平塚駅に到着したとき二団の乗客があり、若い乗客の後ろにお年寄りが数人乗り込んだ。車内はあっという間に座席が埋まり、立たなければならぬ人もいた。

その時、先ほどまで騒がしかった学生たちがすっと立ち上がり、お年寄りに席を譲っているではないか。「僕たちもうすぐ降りますからどうぞ」と声をかけている。

彼らは茅ヶ崎駅で降りたが、その間は小声で話し、不快な印象は全く感じられず、むしろ頼もしい少年たちに感じられた。おそらくその場に居合わせた乗客皆が同じ気持ちだったのだろうと思う。

ふと自分が学生だった頃を思い出し、自分が同じ立場であったら同じように振る舞えたであろうか？いささか反省の気持ちと、素晴らしい光景を見せてもらった嬉しさとが交錯した、目から鱗の出張であった。

「議会だより」も再開後一年が過ぎました。これまで編集委員会メンバー手作りで作ってまいりましたが、これからは見やすい紙面となるように工夫してまいります。

議会だより編集委員会委員  
岩本 克美

## 議会だより編集委員会

- |      |       |
|------|-------|
| 委員長  | 村田 知子 |
| 副委員長 | 神野 秀幸 |
| 委員   | 海野 弘幸 |
| 委員   | 岩本 克美 |
| 委員   | 二見 和幸 |
| 委員   | 青木 殿  |